

腸管出血性大腸菌(O157等) 感染症にご注意！！

感染経路

腸管出血性大腸菌（O157等）は、通常牛等の腸内に生息しています。そのため腸の内容物で汚染された食品を介して、口から体内に入ることによって感染します。

- ★食べ物（牛肉やレバーなどは十分に加熱しましょう。）
- ★生肉に触れた箸（焼く箸と食べる箸を使い分けましょう。）
- ★患者・保菌者の糞便で汚染されたものや水 など

腸管出血性大腸菌はわずか数十個程度の菌が体の中に入っただけでも発症することがあるため、患者・保菌者の糞便などから二次感染することがあります。

潜伏期間と症状



潜伏期間：2～14日（平均3～5日）

症状：下痢（軽いものから水様便や血便）・腹痛・発熱など

※乳幼児や高齢者では重症になる場合があります。

※発症後1～2週間は、溶血性尿毒症症候群（HUS）を起こすことがありますので注意が必要です。

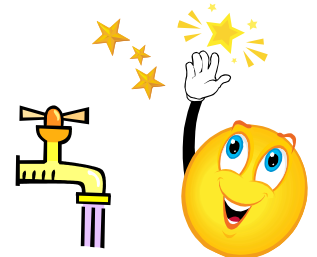
★下痢・腹痛・発熱などの症状がある時は、早めに受診しましょう。

※HUS：ベロ毒素により腎臓の細胞が傷害されて発症する、溶血性貧血、血小板減少、急性腎不全の3つを特徴とする状態。

主な症状：尿が出にくい・出血をおこしやすい・頭痛など
重症になるとけいれん、昏睡を起こし、生命の危険がある。

二次感染防止のために

- ★普段から調理前や食事前、トイレの後は石けんをよく泡立てて手指から手首までを十分にあらいましょう。
- ★タオルの共同使用はやめましょう。
- ★患者・保菌者がお風呂を使用する場合、下痢があるときは、シャワーまたは、かけ湯にしましょう。浴槽につかる時は最後にし、混浴は避けましょう。浴槽の水は毎日替え、浴室、浴槽はよく洗い流しましょう。
- ★糞便処理をする時は、使い捨てビニール手袋を使いましょう。処理が済んだ後は、手袋をはずし石けんで手洗いしましょう。（また、乳幼児や高齢者のオムツ交換時の汚染に充分気をつけましょう。）
- ★下痢などで体調の悪いときには、プールの利用はやめましょう。簡易ビニールプール等を利用する場合は、頻りに水を交換しましょう。
- ★患者・保菌者が飲食物に直接接触する業務に従事することは、法律で制限されています。



消毒方法について

手指

- ★石鹸で手洗い後、消毒用アルコールを手のひらにとり、乾燥するまで（約1分間）、手に擦りこんで使う。

食器・器具 ふきん まな板 おもちゃ等

★次亜塩素酸ナトリウム★（台所用塩素系漂白剤など）

- ・0.02%次亜塩素酸ナトリウムの消毒液（下記参照）に30分間浸し、水洗いする。

★熱湯消毒★

- ・80℃で5分以上煮沸
（ただし、ふきんは100℃で5分以上煮沸）

トイレの取手 ドアノブ

★次亜塩素酸ナトリウム★（台所用塩素系漂白剤など）

- ・0.02%次亜塩素酸ナトリウムの消毒液（下記参照）を十分に含ませた布で拭き取る。
- ・金属部分に使用した場合は、10分ほどたったら水拭きする。

衣類の消毒

★次亜塩素酸ナトリウム★（台所用塩素系漂白剤など）

- ・0.02%次亜塩素酸ナトリウムの消毒液（下記参照）に30分間つけた後、洗濯する。
- ・漂白作用があるので注意する。

★熱湯消毒★

- ・熱水洗濯機（80℃10分間）で処理し洗浄後乾燥させる。
- ・すぐに洗えないような布団などの場合は、表面の嘔吐物をペーパータオルなどで取り除いた後にスチームアイロンを使う方法もあります。
（85℃1分以上加熱！）

風呂場

★次亜塩素酸ナトリウム★（台所用塩素系漂白剤など）

- ・0.02%次亜塩素酸ナトリウムの消毒液（下記参照）で消毒する。
- ・金属部分に使用した場合は、10分ほどたったら水拭きする。

❖消毒する際は、マスク、使い捨ての手袋やエプロンを着用し、

掃除の後は、必ず石鹸で手洗いをする❖

	原液濃度	商品名	希釈	方法
0.02% 次亜塩素酸 ナトリウム の消毒液	1%	ミルトン など	50倍	原液10ml + 水500ml 【キャップ2杯】
	5%	ハイター、 ブリーチなど	250倍	原液10ml + 水2.5L 【キャップ2杯】
	6%	ピューラックス、 アサヒラックなど	300倍	原液10ml + 水3L 【キャップ2杯】

500ml
ペットボトルで

1本分

5本分

6本分